

- 本日私からは、4 点お伝えいたします。
- まず、8 月 20 日の原子力規制委員会において報告された、2026 年度第 1 四半期に実施された核物質防護にかかる原子力規制検査等の結果についてです。
- 当発電所に関しては、「防護区域等の出入管理システムの一部機能喪失」事案が、重要度「緑」、深刻度「IV（4）」との判定となりました。
- 本事案以外にも不適切な事案が続けて発生しており、発電所長として重く受け止めております。
- 今回の緑判定となった事案は、中央制御室のゲートにおいて、運転員が退域する際に、ID カードを忘れたためゲートから出られなくなりました。
- このため、先に退域していた別の運転員が閉じ込められた運転員を助けようと自身の ID カードを使用し退域させたものです。
- その際、本来、先に退域していた運転員の ID カードで二重に退域操作はできないところ、システム不具合により不適切な退域を阻止することができませんでした。
- 本事案については、既に必要な措置を講じ、脆弱性は解消しています。
- また当該の運転員だけでなく、運転員全員への再教育なども実施をしております。

- 当社は、2016 年に当該システムの不具合を確認して以降、CAP の枠組みの中でエラー発生時の手順を制定のもと、対応を図ってきました。
- また、出入管理については、2021 年の「核物質防護設備の機能の一部喪失」事案、いわゆる「赤」事案を踏まえ、複数の生体認証を設置するなど、不正な入域者に対する対策も実施してまいりました。
- 加えて、当該システムを含む出入管理に関するセキュリティシステム全体についての更新も計画し、順次、工事を進めているところでした。
- 一方で、当該システムの不具合頻度も増えてきておりました。
- また、サイバーセキュリティ要件への対応などから、セキュリティシステム更新の工期が見直しとなってきた中、追加対策の検討が不十分だった点は反省すべきところです。
- 本事案に限らず、実直に原因対策を図り、繰り返し改善し続けていくこと自体が、発電所のセキュリティ強化につながるものであり、この取り組みに終わりはないものと考えております。
- 引き続き、私が先頭に立って取り組みを進めていくとともに、地域のみなさまへも丁寧に説明してまいります。
- 2 点目は、6 号機の長期施設管理計画の補正申請についてです。
- 当該申請については、これまでの審査会合でいただいたご指摘やヒアリング等での議論内容を反映し、本日午後、原子力規制委員会への提出を予定しております。

- 運転開始から 30 年を迎える 11 月までにしっかりと審査いただけるよう、一つひとつ的確に対応してまいります。
- 3 点目は、8 月 7 日のユニット所長記者説明会でもご説明させていただきました自主的な海水温の基準についてです。
- 海水温度が上昇した場合、通常運転に支障はないものの、万一の事故の際に使用する設備に影響が出る可能性があります。
- 一方で、現在の基準については保守的に見積もっている部分もあり、実状に合わせ見直し検討を進めていることをご説明しておりました。
- 検討の結果、熱交換器の性能について、評価条件と実態を比較したところ、7 日間移動平均の基準について引き上げる余裕があることが確認できました。
- これに基づき解析を行い、これまで基準値は 31℃であったものを、32.9℃に見直すことといたしました。
- 当初の解析では、熱交換器の伝熱管が経年劣化等で使用できなくなった場合、当該伝熱管に栓をする想定で評価を行っており、この割合を 5 %とみていました。
- 一方、当発電所の実際の運用では栓をすることはなく、従って熱交換器の性能低下は含める必要がないことを確認しました。
- なお、仮に伝熱管が劣化した場合は、当該伝熱管を交換することとしています。
- この実態に合わせた解析を行ったところ、1.9℃の余裕があることがわかったものとなります。

- いずれにしても、海水温の状況については、引き続き注視してまいります。
- 最後に、8月15日に開催され、私自身も参加させていただいた「出雲崎町船祭り」と「刈羽村ふるさと祭り」についてです。
- 「出雲崎町船祭り」では式典の後のコミュニケーションブースに立たせていただき、お子さま連れのご家族と直接お話をしました。
- 改めて所員と地元の方が直接対話をし、顔の見える関係を築くことの重要性を実感しました。
- また、「刈羽村ふるさと祭り」では社員22名で揃いの浴衣を着て盆踊りに参加しました。
- 花火大会では、柏崎市の「ぎおん祭り」に続き、改めて地域の皆さまに感謝をお伝えするべく、社員有志と会社の合同で打ち上げを行いました。
- 翌朝の清掃活動も、社員21名で参加しております。
- こうした行事一つひとつが、発電所員にとって地域のみなさまと触れ合える催しであり、大切にしてほしいと所内で呼びかけています。
- 今後も地域の皆さまと一緒に、地域を盛り上げ、発電所の志に掲げた、「地域を愛し、地域に愛される発電所」を目指してまいります。
- 本日私からは以上です。

以 上